

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

### 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年8月14日

#### 【評価実施概要】

事業所番号	2873100651		
法人名	株式会社 日本福祉総合企画		
事業所名	ハートケア川西		
所在地	川西市多田院2丁目16-1 (電話) 072-790-1241		
評価機関名	株式会社H. R. コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年7月20日	評価確定日	平成19年9月21日

【情報提供票より】 (19年6月1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	29 人	常勤 11人, 非常勤15人, 常勤換算	13,9 人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2 階建ての	0 全 階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有 ( 500,000 円)		無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	円	おやつ	200 円
	または1日当たり		0 円	

#### (4) 利用者の概要 ( 月 日現在 )

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護1	4	要介護2	2		
要介護3	10	要介護4	6		
要介護5	5	要支援2	0		
年齢	平均 83,7 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	くさかベクリニック・ふれあい歯科診療所・デンタルサポート(往診専門歯科)
---------	--------------------------------------

#### 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲が住宅街で近隣に国の史跡に指定されている神社や公園等があり、落ち着いた環境の中に位置している。ホームは重度の認知症高齢者を受け入れており、入居者一人ひとりの尊厳ある姿を大切にしながら温かく家庭的な暮らしへの支援を目標に、職員は日々のケアに取り組んでいる。入居者の大切な経験やその人らしい希望・願いを非言語コミュニケーションも交えて把握できるよう努め、日常の関わりの中で個別対応も取り入れ、入居者一人ひとりの意向に沿った支援が行われている。重度化についてホームの指針を家族等に説明し同意をもらい、状況に応じて家族・主治医・ホームが今後の対応について共通認識を持ち、話し合いを重ねていけるよう体制を整えている。

#### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回評価はミーティング等で改善に向けて話し合っている。評価結果や改善への取り組みについては運営推進会議で報告し、参加者の意見を参考に今後のホームの質の向上に反映していく事を期待する。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	自己評価はユニット毎に話し合われユニット責任者が職員間の意見調整を行い、最終的に管理者と共に検討を重ねユニット毎の結果をひとつにまとめあげた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	現在までに1回開催し、認知症の理解について・ホームの役割と現状・災害対策等が主な討議内容となっている。会議の中で話し合われた「認知症の理解を得る為の取り組み」について、具体策として老人会での認知症の説明会実施を検討している。地域に開かれたホームとして質の確保の為にも運営推進会議の定期的な開催が望まれる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	入居者の近況報告等は家族の来訪時に話しやすいような場面づくりを心がけ、また定期的にホーム便りや家族レターを家族に送付している。家族会の設置はないが、ホーム行事等で家族の参加があり、その機会を利用し話し合うよう努めている。家族面会時や運営推進会議での家族の意見は、ミーティングで改善に向けて検討し速やかな対応を心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	地元自治会の協力があり地域との交流が増している。自治会主催で2ヶ月に1回開催の「ふれあい喫茶」への参加を継続している。日常の外出や散歩での挨拶、近隣より花を頂きホームに飾る等気軽な交流があり、レクリエーションでボランティアの協力を得ている。今後は地域の人々がホーム主催の行事へ参加してくれる為の働きかけを検討している。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で入居者が今までの環境に近い暮らしが継続できるよう支援していくことを目指している。理念はパンフレットに明示し家族にも入居時に説明し理解を得ている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のミーティングでパート職員等も含め理念について話し合い確認しあっている。理念の実現に向けて職員全体で取り組んでいるか、個々のケアに生かしているか等を定期的に振り返り見直す機会を持ち、職員間の意識を高めるよう働きかけている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元自治会の協力があり、地域との交流が増している。自治会が主催している2ヶ月に1回開催の「ふれあい喫茶」への参加を継続している。日常の外出や散歩での挨拶や声かけ、近隣より花を頂きホームに飾る等、気軽な交流ができています。レクリエーションでボランティアの協力を得ている。今後は地域の人々がホーム主催の行事へ参加してくれるよう働きかけを検討している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価はミーティング等で改善に向けて話し合った。自己評価はユニット毎に話し合わせユニット責任者が職員間での意見調整を行い、最終的に管理者と共に検討を重ねユニット毎の結果をひとつにまとめあげた。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター・自治会会長と班長・老人会・入居者家族・ホーム長・管理者の参加により現在までに1回開催している。認知症の理解について・ホームの役割と現状・災害対策等が主な討議内容となっている。会議の中で話し合われた「認知症理解への具体的な取り組み」として老人会での説明会を検討している。	○	地域に開かれたホームとしての質の確保の為に、運営推進会議の定期的な開催が望まれる。家族の理解と協力を得る為に、運営推進会議の内容について家族へ定期的に報告していく事を期待する。
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で交流を持つと共に、地域密着型サービスとしての関わりが増し、制度に関する相談や意見交換等の交流が継続している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時に入居者の近況を伝えると共に、ホーム全体の便りを2ヶ月に1回、ユニット毎の便りを2ヶ月に1回作成し、定期的に家族に送付している。職員の異動や行事等での入居者の写真も便りに掲載し伝えている。家族会の設置はないが、ホームでの行事に家族の参加があり、その機会を利用し話している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に、ホーム長や担当者と相談できるよう取り組んでいる。運営推進会議で家族との意見交換の場がある。家族からの相談や意見はミーティング等で話し合い、職員間で共有し、迅速な対応を心がけている。苦情等に関する家族への返答については口答の場合が多い。	○	家族からの意見や相談等は状況によっては記録として残し、職員間で情報共有し運営面等に反映できるよう期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニット間での職員の異動により入居者に不安を与えないよう、職員は出勤時などに全フロアの入居者に挨拶や声掛けを行い、申し送り事項は入居者全体を把握するよう努めるなど馴染みの関係が保てるよう心掛けている。異動に関しては入居者への配慮と共に家族に不安がないよう状況を報告している。入居者や家族にわかりやすいように、職員一人ひとりの写真と名前をホーム内に掲示する事を検討している。</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修に関しては職員に案内し受講を勧めている。研修内容によっては勤務調整や研修費等の補助などの支援体制がある。職員の意識や関心を高める為に資料や書籍を閲覧できるよう取り組んでいる。</p>	○	<p>研修計画を策定し、職員の経験や習熟度に沿って段階的なフォローアップ研修の実施を検討する事が望ましい。内部研修の実施により、職員全体が知識を共有しケアの質の向上への取り組みが期待される</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内には同業者間の連絡会は設置されていないが、各種研修等を通じて交流や情報交換を行っている。</p>	○	<p>市や地域包括支援センターの協力を得て、市内での連絡会の設立が実現する事を期待する。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前の面接で入居者の生活環境や意向を把握し、入居後の生活に反映できるよう配慮している。入居前のホーム見学は重度の認知症の方など状況に応じて慎重に対応し、不穏にならないよう取り組んでいる。ホーム内への使い慣れた家具等の持ち込みを勧め、居室等で落ち着いた時間が過ごせるよう支援している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>○利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常の関わりの中で、入居者の生活歴や関心事などに沿った話題の提供等に配慮し、教えてもらったり支えあったりする機会が持てるよう取り組んでいる。洗濯物の干し方やたみ方・食材や料理法について・花の名前などを教えてもらうなどの機会がある。</p>		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの入居者に合わせた対応を心掛け、意思表示の出来にくい入居者は、家族から情報を得ると共に入居者の表情やしぐさ等非言語コミュニケーションも大切にし、思いや希望を把握している。日々の入居者の状況を記録し、介護計画の見直し等の参考にしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時本人や家族から生活歴や意向を聞き記録にまとめ、その情報をもとにミーティング・カンファレンス等で検討し個々のニーズに沿った介護計画を作成している。作成された計画は家族に説明し同意をもらっている。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しを6ヶ月に1回実施しているが、状況の悪化など変化があった場合は随時変更するよう取り組んでいる。認知症の重度の入居者が多いため、毎月のミーティングで個々の入居者の状況を振り返り、早い対応が可能なよう取り組んでいる。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制を整え、24時間体制にて入居者の急変時の対応が可能であると共に、日常の入居者の健康管理等で看護師の協力も得ている。外部の医療機関の受診を希望する場合は、職員が付き添い支援している。入居者の入院時は関係者との連携を図り、早期退院に向けた支援を行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	週に1回往診医による入居者の健康状態の把握があり、日々の生活の中、協力医や看護師との連携で入居者や家族への相談や対応ができるよう支援体制が整っている。		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度化した場合のホームの対応についての指針を入居時等に家族等に説明し同意をもらっている。状況に応じてその都度家族・主治医・ホームが今後の対応について共通認識を持つ為に話し合いを重ねている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員は個人情報の保護に関して誓約書を交わし、日常の記録やホーム便り等は個人名の記載については慎重な対応を心がけている。一人ひとりに合わせた会話、傾聴に心がけ、利用者の尊厳を大切にされた支援が行われている。		
21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	食事のペースは本人にあわせ落ち着いて食事が出来るように配慮し、近隣の散歩等は身体状況を考慮しながら本人の希望に添った、個別対応の機会も取り入れている。楽しみごとへの参加は、本人の得意だった事や興味のある事を把握し、無理のないよう意向に添う支援を行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立と食材の搬入は外部業者に依頼し、配膳室で調理等を行っているが、ご飯と味噌汁はユニット毎に作っている。食後の片づけや洗い物等は入居者の状況に応じて職員と一緒にやっている。月に2回程度昼食レクとして、外食や食事作りを楽しめるよう取り組んでいる。</p>		
23	57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は2～3日に1回となっている。現在は入居者の心身の状態により入浴時の介助が全員必要な為、入居者一人ひとりの入浴日時等の希望に添った支援が難しい状況ではあるが、くつろいだ気分で入浴できるよう配慮している。</p>	○	<p>今後も入居者の心身の状況に配慮しつつ、できる限り入居者の希望にあわせた入浴支援になるよう、対応法の工夫や人員体制の調整等検討を重ねていく事を期待する。</p>
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>1日の流れの中で役割や楽しみ事への参加が入居者一人ひとりの意向に沿うよう支援している。昼食レク・喫茶レクで気分転換を図り、ちぎり絵等はボランティアの協力を得ている。年間行事としてお花見・納涼祭・バーベキュー・節分等を実施し、家族の参加や協力を得ている。</p>		
25	61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>ドライブ・花見・外食・喫茶店に行く等入居者の希望に配慮しながら支援している。要介護度の高い入居者も多いため、日々の散歩等は個別対応が多く、庭や駐車場を活用して野菜作り・お茶を楽しむ等の取り組みもある。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	重度の認知症や精神疾患合併の方もあり、家族の了承を得て状況によっては玄関等施錠を行っている。共有空間の廊下は回廊式で、また1階のユニット間は入居者が自由に行き来できる配置になっており、ホーム内では入居者は自由に移動している。	○	今後も安全面に配慮した暮らしの中で、入居者の自由な思いが尊重されるための工夫について、家族や地域と共に検討を重ねていく事が期待される。
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との連携は取れており、相談の機会が適宜ある。自動通報装置を設置し緊急時に備えている。地域との協力体制を整える為に、運営推進会議で災害時の対応策について検討している。	○	災害に備え避難誘導や救急法などが迅速に行えるよう、職員全体で研修会等を定期的に行う事が望まれる。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事摂取量や水分摂取量は記録に残し、入居者の健康管理に活用している。食事の摂取状況に応じて医師との相談のうえ栄養剤の補給等の対応を行っている。3～4ヶ月に1回栄養士との食事に関するミーティングを実施している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
		○居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関付近は風鈴を掛け、水槽に金魚を飼い、季節感が味わえる様工夫している。リビングや廊下は入居者の行事の写真や貼り絵等掲示し、温かい雰囲気になるよう配慮している。中庭を中心に廊下が回廊式になっており、閉塞感を感じさせないように工夫している。適宜換気や空調管理に配慮し気になる臭い等は無かった。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みの物や使い慣れた物を持ち込むように支援しており、家族の協力も得て個性を大切にした居室となっている。入居者の状況によっては安全面に配慮し、物品の持込みに対して慎重に対応している居室もある。居室入り口には入居者の写真や装飾品を掛け、場所間違いを防ぐよう配慮している。		

※  は、重点項目。